

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

→ 5 神の預言の確かさ

終末論

—その4—

「神のご計画の最後のこと」の研究

神の遠大なるご計画にとって重要な「終末論」

☆この世に対する神の究極的な御目的の学び

☆聖書、人間史を意義あるものとして描写

キリストの千年支配、神の国

☆「千年期に関する諸節」には三通りの見解

☆前千年期説は歴史的に最も古い、初代教会が独占的に採っていた見解

☆キリストが「千年期」の始まる前^前に来られると信じる見解はすべて、前千年期説

☆キリストが再び来られるとき、主はこの地上を千年間（一定期間）支配される

そのあと、永久の御国へと時代は移り、神のご計画は完成する

☆キリスト、この究極的な「永久の御国」を「父の御国」と呼ばれた マタイ13：43

前千年期説（千年期前再臨説）	
キリストの支配場所	地上
千年支配の時期	キリスト再臨後、千年間（一定期間）
サタンが縛られる時期	未来 キリスト再臨直後、千年期が始まる直前、御使いによって
第一と第二の復活	両方とも身体の復活 † 第一の復活にあずかるのは幸いな者たち † 残りの者はすべて、第二の復活にあずかる
キリストとともに支配する者	勝利を得た者（克服者、殉教者）

前千年期説

☆千年隔てて二つの復活（身体の甦り）が起こる

①第一の復活

信じる者（義人）の復活、—幸いな者たちの甦り— はキリストの再臨時

②第二の復活

信じない者（悪者）の復活、—残りの者すべての復活— は、その千年後に起こる

☆信じない者の最後の審判の直後、新しい天地に、新しい都が降り、永久の御国へと移る

☆「艱難期」、—迫害、苦難の時期— に関する二通りの見解

①ダニエル書9：27の解釈を根拠に、特に、キリスト再臨前の七年間を艱難期とする

②キリストの初臨以降、再臨に至るまでの全時代において、信者が経験する艱難への言及
ただし、キリスト再臨直前には、艱難の度合いが高まる

☆『艱難後携挙説』では、

キリストの再臨は、キリスト者の群れ「教会」が大艱難期を経た後起こる

このとき、信じて亡くなった人々（死んだキリスト者と旧約時代の聖徒）の甦りと、まだ
生きているキリスト者の携挙、—甦りの身体が与えられ、空中に上げられ、パルージア
（到着）のキリストと出会う— が起こる

＊『前千年期説』支持者のほとんどは『艱難前携挙説』支持者で、再臨と携挙の時期を分離

聖書

聖書の概略 一神の人類救済のご計画一

† 神は天地、生き物、人を創造された

† 神は人が地で、神ご自身との楽しく充実した人生を送ることを望まれた

† 神の御命令にそむいたことにより、サタンを通して罪が入り、人は神との正しい関係を失った

† 最初の人類の神への反逆の結果、この世に悪と死が入った

† 人はみな「罪人」、一神に反逆する者として生まれることになった

† しかし神は、人を罪と死の中に捨て置かれなかった

† 神は人をご自分の家族に迎え入れるために、初めから大いなるご計画を持っておられた

† 神は、「罪人」の中からアブラハムとその子孫のイスラエルを選ばれ、神の証人とされた

† 神は、罪の赦しと、ご自分と人との関係を取り戻すために、ヘブル人ダビデの系図に連なる人「イエス・キリスト」として地に来られる「道」を備えられた

† それは人を滅ぼさないで、罪と死を完全に滅ぼす道であった

† それは、二度に亘る来臨（御子、天から地に降られ、地に住まわれる）で、

①最初の来臨は、苦難のしもべとして、

②二度目の来臨は、栄光の王として、

「罪人」を復興させ、ご自分との関係を完全に元どおりにする「贖い」の道であった

† 神の御目的は、すべての人がご自分とともに、完全な環境の下で、完全で、聖く、愛すべき家族関係に生きるようになること

† この神の遠大なるご計画の筋書きの考案者は神ご自身であり、その主人公も神ご自身

神の国

☆ 神の国はとこしえ

旧新約両聖書で邦訳「神の国」のギリシャ語は、神の支配、神の掟、神の主権の意

☆ 神の国は、すでに今この世に突入し、私たちのただ中にある霊的現実

★ 神の国はこの世の現実

黙示録1:9

★ キリスト、神の国の存在を告げ、公のミニストリーを始められた

マルコ1:15

★ 「神の国」を宣言することは、キリストの教えとたとえの趣旨

★ 「**神の国を宣べ伝え（る）**」ことは、「**福音を宣べ伝え（る）**」こと、

「**神の恵みの福音をあかしする**」ことに等しい ルカ9:2、:6、使徒の働き20:24-25

★ 「**神の国のことをあかし（する）**」ことは、「**救い**」を語ることに等しい

使徒の働き28:23-31

★ 神の国は、聖霊の御働きの下で福音を宣べ伝えることを通して、訪れる

使徒の働き2章

☆ 終末論的に解釈される神の国

★ 神の国は、全人間史の終末論的ゴール

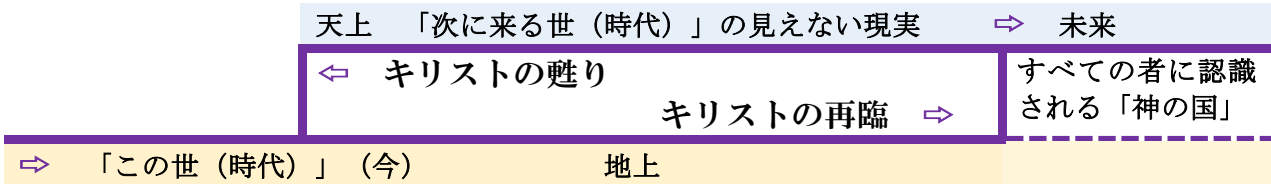
★ 神の国は今すでに始まった、しかし、未来のこと

★ キリストの再臨のとき、信じる者に与えられる相続 マタイ25:34

聖書

キリストの初臨と神の国の「すでに、しかし、まだ」の特徴

- ☆神の国とキリストの支配、今、ただ中にある → 御国の「すでに」の部分
- すべての栄光で顕れる未来の完成を待っている → 御国の「まだ」の部分
- ☆神の国の二面性 マタイ13：24-30、：47-50



- ☆神の支配は、この世では完全には認識されない
- ☆人間史、神の国と悪の力との戦いで彩られてきた
マタイ12：28
- ☆神の国は次に来る世に属し、まだ未来のこと
人として来られたキリストとキリストの宣教によって、神の国はこの世の人間史に突入

終末論的「神の国」のこの世における現実

1. イエス・キリストは御座に着いて、支配しておられる
御使いガブリエル、神の約束—「ダビデの子孫の永久の支配がキリストにおいて成就すること」—を、マリヤに告げた ルカ1：32-33
☆キリストご自身のお言葉での証し
マタイ28：18
☆ペンテコステの日のペテロの説教
使徒の働き2：22-36
—キリストが甦られ、昇天され、神の右の座に着かれたことはダビデ契約の成就—
2. 信じる者は新しい「天の国籍」が与えられ、神の国に移された
ピリピ人3：20
3. 王の存在 → 神の国が存在する
4. 神の国を宣教 → 神の国がある
5. 病人を癒し、死人を生き返らせ、悪霊を追い出す王の力 → 神の国存在の証し
6. 罪の赦し → 神の国が存在するしるし
ルカ5：20-32
罪の赦しを受けるキリストの能力 → 旧約の預言の成就で、神の国のしるし
7. 神の国は、「永遠のいのち」に等しいとみなされた
マタイ19：16
8. 神の国は、甦りをもたらす

この世に生きるキリスト者のジレンマ

- ☆マルコ10：23-30
キリストに従う者たち、まだ迫害、憎しみ、艱難、病、死に直面しなければならない
- ☆テサロニケ人第二1：4-12
「神の国にふさわしい者」に対するこの世での迫害と艱難は、神の裁きの正しさのしるし
- ☆ヘブル人2：8

聖書

光と闇の隠喩

- ☆ この世の「暗やみ」と主に従わない者たち⇔キリストの「光」とキリストを信じる者たち
- ☆ 預言者イザヤの預言の成就
マタイ4：15-16
- ☆ 「光の子どもらしく歩（むように）」との、キリスト者への奨励
エペソ人5：8-9

メシヤの初臨で明らかにされた神のご計画の全容

- ☆ 新約聖書が明らかにした、メシヤの二回の来臨
- ☆ 新約時代に生きる者たちに明らかにされた「神のご計画の全体」
使徒の働き20：27
- ☆ ヘブル語（旧約）聖書の終末論構成、—「二つの時代」—、新約とも一貫

—「この世」と「次に来る世」—

- ☆ 対照的な「二つの時代」の叙述
 1. コリント人第一13：12 映像ではなく実物
 2. ルカ16：8 「この世の子ら」と「光の子ら」
 3. テモテ第一4：8 「今のいのち」と「未来のいのち」
 4. ヘブル人13：14 二つの都の比較
 5. ヨハネ第一3：2 今の状態と後の状態
- ☆ この「二つの時代」の質の違い
 - † 「この世」は悪、悪徳、神の御旨に対する反逆で支配、「次に来る世」は神の支配の時代
 - † 「この世」には死、「次に来る世」には永久の生命
 - † 「この世」では義と不義が混在、「次に来る世」では、すべての悪と罪が滅ぼされる
 - † サタンは今日「この世の神」、「次に来る世」では、神の義が諸悪に置き換えられる
- ☆ キリストの初臨がもたらした「二つの時代」の重なり

この「二つの時代」の構成、神の国の特徴「すでに、しかし、まだ」と同じ

 1. 「次に来る世」はキリストの支配の世、キリストの支配はすでにこの世で始まった
 2. 「次に来る世」は甦りの世、甦りはすでに始まった
 3. 「次に来る世」は永久の生命の時代、永久の生命はすでに始まった
 4. 「次に来る世」は新しい創造の時代、新しい創造はすでに始まった

⇒ キリスト者はこの世に生存しながら、未来の生命を生き、その恩恵を味わう未来の民

☆ 聖書の語る「二段階」での救いの特徴

- ☆ 信仰義認、神の子としての受け入れ、贖いはすでに起こった現実、かつ、未来の祝福
- ☆ 救いは二段階

この二つの時代の間、キリストを受け入れ、救われたキリスト者は「この世にいる」が、キリストが「この世のものでないように、彼らもこの世のものでない」
ヨハネ17：14

→ 2 神の視点、神の次元

⇒ 聖書のパタン、明確で一貫した終末論的構成

キリストの初臨以降もたらされた二面性、二つの時代—「この世」と「次に来る世」—
キリストの初臨、一死、甦り、昇天の一連の出来事—で「次に来る世」が「この世」に突入
キリストの初臨、この世を「世の終わり」（複数形）に位置づけ
終末末期の「世の終わり」（単数形）に、「この世」は「次に来る世」に移る